

平成 27 年度文化庁委託事業報告

『被災地方言と方言で語る生活文化の再発見と継承：
茨城と福島浜通りの方言に学ぶ取り組み』 第四部

東日本大震災による茨城県内への避難者対象の方言意識調査結果

東日本大震災による茨城県内への避難者対象の方言意識調査結果（暫定版）

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

調査の目的は、調査票表紙に述べた以下のとおりである。調査票全体については、報告書巻末（省略）に収めたので、参照されたい。

本調査は、東日本大震災被災地の方言に関して、茨城大学が文化庁の委託を受けて行う事業の一環として行うものです。調査の目的は、東日本大震災によって住み慣れたところを離れ、現在、茨城県内に避難されている方々より、震災発生以降の方言に関わる状況やご意見をお教えいただき、今後役に立てることにあります。震災後、間もなく5年になろうとしています。この間、皆様の暮らしにおいて方言がどのような役割を果たしてきたか、また方言に関して何か困ったことなどがなかったか等についてお教えいただきたいと考えております。本調査の結果は、慎重に分析・考察するとともに、私共は方言の面からどのような取り組みを今後行うべきか等を明らかにし、方言を活用した取り組みにつなげたいと考えております。また、茨城大学では、およそ3年前に類似の調査を行っておりますので、今回の調査と前回の調査の結果の比較も行いたいと考えております。

(2) 調査実施時期と方法

つくば市役所総務部総務課ならびに水戸市地域安全課の協力を得て、調査票等を郵送し、同封の返信用封筒で調査票のみを返送してもらう方法で、調査を実施した。

調査票等は2016年1月19日につくば市役所より、2月18日頃に水戸市役所より郵送され、郵送により返送してもらう形で回収した。本報告における回答は、つくば市調査では3月18日までに、水戸市調査では4月3日までに受け取ったものを対象に集計した。（両調査とも、それ以降に届いたものはない。）

(3) 調査対象

調査対象（調査票送付対象者）は、つくば市においては、同市に在住する東日本大震災による避難者（個人）、水戸市においては同市に在住する東日本大震災による避難者（送付は世帯、回答は個人）である。回答は、それぞれ高校生以上の年代に協力依頼をした。

調査票送付時現在で、調査対象者数はつくば市においては403名の個人、水戸市においては173の世帯である。

2. 調査結果

調査票の設問に沿って調査結果を示していく。2015年度調査の全体、つくば市調査、水戸市調査について、設問項目ごとに示していく。また、2015年度調査において新たに加えた項目を除いて、2012年調査（つくば市）の結果も参考として示していく。

自由記述形式の設問項目については、具体的な記述の一部を紹介する。

各設問に対する結果の分析については、後日、追加調査結果を含めて行う予定であるので、本報告においては結果の暫定速報として、主に集計結果を示すにとどめる。

2.0 回答数と内訳、以前の居住地

表1 回答者（全体）：年代、性別 ※上段：人数、下段：各属性内の%

年代	80代以上	70代	60代	50代	40代	30代	20代	10代	計
男性	7 (9.9)	14 (19.7)	26 (36.6)	10 (14.1)	7 (9.9)	4 (5.6)	1 (1.4)	2 (2.8)	71 (100)
女性	16 (16.7)	11 (11.5)	28 (29.2)	10 (10.4)	11 (11.5)	12 (12.5)	6 (6.3)	2 (2.1)	96 (100)
性不明	4	2	4	0	0	0	0	0	10
計	27 (15.3)	27 (15.3)	58 (32.8)	20 (11.3)	18 (10.2)	16 (9.0)	7 (4.0)	4 (2.3)	177 (100)

表1-1 回答者：つくば調査2015

年代	80代以上	70代	60代	50代	40代	30代	20代	10代	計
男性	4 (8.2)	12 (24.5)	18 (36.7)	4 (8.2)	6 (12.2)	3 (6.1)	1 (2.0)	1 (2.0)	49 (100)
女性	11 (16.7)	8 (12.1)	18 (27.3)	6 (9.1)	7 (10.6)	9 (13.6)	5 (7.6)	2 (3.0)	66 (100)
性不明	2	1	2	0	0	0	0	0	5
計	17 (14.2)	21 (17.5)	38 (31.7)	10 (8.3)	13 (10.8)	12 (10)	6 (5)	3 (2.5)	120 (100)

表1-2 回答者：水戸調査2015

年代	80代以上	70代	60代	50代	40代	30代	20代	10代	計
男性	3 (13.6)	2 (9.1)	8 (36.4)	6 (27.3)	1 (4.5)	1 (4.5)	0 (0.0)	1 (4.5)	22 (100)
女性	5 (16.7)	3 (10)	10 (33.3)	4 (13.3)	4 (11.1)	3 (10)	1 (3.3)	0 (0.0)	30 (100)
性不明	2	1	2	0	0	0	0	0	5
計	10 (17.5)	6 (10.5)	20 (35.1)	10 (17.5)	5 (7.8)	4 (7.0)	1 (1.8)	1 (1.8)	57 (100)

参考 表1-3 回答者：つくば調査2012

年代	80代以上	70代	60代	50代	40代	30代	20代	10代	計
男性	6 (8.1)	16 (21.6)	23 (31.1)	9 (12.2)	8 (10.8)	7 (9.5)	3 (4.1)	2 (2.7)	74 (100)
女性	13 (13.8)	15 (16.0)	28 (29.8)	11 (11.7)	13 (13.8)	6 (6.4)	6 (6.4)	2 (2.1)	94 (100)
性不明	1	3	6						10
計	20 (11.2)	34 (19.1)	57 (32.0)	20 (11.2)	21 (11.8)	13 (7.3)	9 (5.1)	4 (2.2)	178 (100)

* 「性不明」は性別無回答のもの。

***10代の回答は全て「中高校生」。

回答者の年代別内訳をみると、つくば市・水戸市とも60代の回答者が最も多く、30%を超えている。60代が最も多いのは、2012年調査と同じ傾向である。また、70代以上も両市とも多く、若い世代や働き盛りの世代の回答者が少ない。男女別に見ると、全体で男性40.1%、女性54.2%、つくば市は男性40.8%、女性55%、水戸市は男性38.62%、女性52.6%となっており、女性のほうが約14ポイント多い。(2012年調査では、男性41.6%、女性52.8%) 以上のように、本調査の回答者は、高齢世代にかなり偏っていること、女性が男性に比べて優位に多いことが回答者の属性の特徴と言える。なお、以下に示す結果は、回答者そのものに世代と性別における明らかな偏りがあることを踏まえて分析・考察すべきであるが、本報告ではそこまで至っていない。分析・考察については今後の課題としたい。

震災前の居住地

つくば市ならびに水戸市在住の避難者の以前の居住地別人数である。両市とも、ほぼ原発事故による福島県からの避難者であると言える。自治体別にみると、今回調査の全体では、浪江町>双葉町>南相馬市の順に多い。しかし、つくば市と水戸市とで比べると、つくば市は浪江町>双葉町>南相馬市>大熊町>富岡町の順、水戸市は南相馬市>富岡町・浪江町>大熊町>いわき市の順となっており、違いがみられる。

(表) 以前の居住地別回答者数(2012年度の順、()中は%)

自治体名	回答者数	つくば市在住回答者数	水戸市在住回答者数
双葉町	33(19.4)	30(25)	4(7.0)
浪江町	43(25.3)	31(25.8)	12(21.1)
南相馬市	26(15.3)	16(13.3)	14(24.6)
いわき市	10(5.9)	5(4.2)	5(8.8)
大熊町	20(11.8)	15(12.5)	7(12.3)
富岡町	19(11.2)	5(4.2)	12(21.1)
檜葉町	7(4.1)	6(5)	3(5.3)
葛尾村	5(2.9)	5(4.2)	0(0)
福島県(他)	6(3.5)	6(5)	0(0)
他県	0(0)	0(0)	0(0)
無回答	1(0.6)	0(0)	0(0)
計	170(100)	120(100)	57(100)

参考

(表) 2012年度つくば調査 以前の居住地別回答者数(多い順、()中は%)

自治体名	回答者人数	つくば市在住者数*	つくば市在住者数**
双葉町	63(35.4)	147(28.3)	144(28.0)
浪江町	39(21.9)	97(18.7)	101(19.6)
南相馬市	24(13.5)	95(18.3)	89(17.3)
いわき市	15(8.4)	36(6.9)	40(7.8)
大熊町	13(7.3)	27(5.2)	27(5.4)
富岡町	12(6.7)	42(8.1)	39(7.6)
檜葉町	5(2.8)	31(6.0)	30(5.8)
福島県(他)	4(2.2)	29(5.6)	35(6.8)
他県	2(1.1)	10(1.9)	10(1.9)
計	178(100)	520(100)	515(100)

*2012年10月15日現在の人数

**2013年3月22日現在の人数

以下、調査票の設問にしたがって、回答の集計結果を示し、その傾向について指摘していく。

2. 1 「A 方言の使用状況について」

〈結果の示し方〉

各設問項目について、次のように全体、男性、女性の順に集計結果を示す。それぞれの数値の割合は、表1、表1-1・-2の「男性」「女性」「計」の人数をそれぞれ母数として出したものである。

[全体回答数(%) (男性回答数(%) : 女性回答数(%))

なお、全回答者の中には性別についての回答のないものがあつたので、男性の回答数(%)と女性の回答数(%)の合計と全回答者数(%)とは一致しない。また、無回答がある場合、各設問の選択肢の回答の合計と全回答数が一致しないことがある。

(1) 方言の使用状況の変化と意識

A01. 震災前と比べて、ご家族（お子さんやお孫さん または ご両親やおじいさん・おばあさん）と方言を使ってお話しされる機会はどうなりましたか？

全体 2015

- 01. 増えた [2(1.1) (1(1.4) : 1(1.0))]
- 02. 減った [65(36.7) (29(40.8) : 34(35.4))]
- 03. 変わらない [110(62.1) (41(57.4) : 61(63.5))]

つくば調査 2015

- 01. 増えた [2(1.7) (1(2.0) : 1(1.5))]
- 02. 減った [47(39.2) (20(40.8) : 26(39.4))]
- 03. 変わらない [71(59.2) (28(57.1) : 39(59.1))]

水戸調査 2015

- 01. 増えた [0(0) (0(0) : 0(0))]
- 02. 減った [18(31.6) (9(40.9) : 8(26.7))]
- 03. 変わらない [39(68.4) (13(59.1) : 22(73.3))]

参考：つくば調査 2012

- 01. 増えた [6(3.4) (2(2.7) : 4(4.3))]
- 02. 減った [48(27.0) (20(27.0) : 27(28.7))]
- 03. 変わらない [122(68.5) (51(68.9) : 63(67.0))]

震災前と比べてご家族と方言で会話する機会は、「変わらない」が最も多く、全体で6割強、水戸市では7割近い。しかし、つくば市の変化を見てみると3年前よりも「変わらない」が約9ポイント減少し、「減った」が約12ポイントも増加している。また、つくば市では少ないながらも「増えた」と回答した人がいるが、水戸ではそれが0である。これらのことから、震災後、時間の経過とともに家族との方言での会話は減る傾向にあると言える。

A02. では、ご親戚や顔見知りの同郷の方と方言を使ってお話しされる機会はどうですか？

全体 2015

- 01. 増えた [3(1.7) (2(2.8) : 1(1.0))]
- 02. 減った [94(53.1) (38(53.5) : 51(53.1))]
- 03. 変わらない [80(45.2) (31(43.7) : 44(45.8))]

つくば調査 2015

- 01. 増えた [3(2.5) (2(4.1) : 1(1.5))]
- 02. 減った [69(57.5) (28(57.1) : 38(57.6))]
- 03. 変わらない [48(40) (19(38.8) : 27(40.9))]

水戸調査 2015

- 01. 増えた [0(0.0) (0(0.0) : 0(0.0))]
- 02. 減った [25(43.9) (10(45.5) : 13(43.3))]
- 03. 変わらない [32(56.1) (12(54.5) : 17(56.7))]

参考：つくば調査 2012

A02. では、ご親戚や顔見知りの同郷の方と方言を使ってお話しされる機会はどうですか？

- 01. 増えた [5(2.8) (2(2.7) : 3(3.2))]
- 02. 減った [73(41.0) (31(41.9) : 41(43.6))]
- 03. 変わらない [99(55.6) (40(54.1) : 50(53.2))]

親戚や顔見知りの同郷の方との方言を使った話しの機会についても、A01.の結果と同様のことが言える。つくば市調査では、3年前の結果と比べて「減った」が約 17 ポイントも増加し、「変わらない」が約 16 ポイントも減少しているおり、水戸市調査では「増えた」の回答がなかった。全体としても「減った」が 5 割を超えており、家族と方言で話す機会以上に、同郷の人との方言での会話の機会が少なくっていることがわかる。

A03. (上の A01. と A02. で「02.減った」という方にうかがいます) そうした状況についてどのように感じますか？

全体 2015

- 01. さびしい [26(23.0) (6(13.3) : 18(28.6))]
- 02. ストレスを感じる [10(8.8) (5(11.1) : 4(6.3))]
- 03. 方言で話したい [5(4.4) (1(2.2) : 3(4.8))]
- 04. 仕方がない [58(51.3) (26(57.8) : 30(47.6))]
- 05. その他 [16(14.2) (7(15.6) : 8(12.7))]

※%は、仮に全回答数の合計(全体 115、男性 45、女性 63)を母数として算出。

つくば調査 2015

- 01. さびしい [17(19.8) (6(17.6) : 11(22.4))]
- 02. ストレスを感じる [6(6.9) (3(8.8) : 3(6.1))]
- 03. 方言で話したい [5(5.8) (1(2.9) : 3(6.1))]
- 04. 仕方がない [47(54.7) (19(55.9) : 26(523.1))]
- 05. その他 [11(12.8) (5(14.7) : 6(12.2))]

※%は、仮に全回答数の合計（全体 86、男性 34、女性 49）を母数として算出。

水戸調査 2015

- 01. さびしい [9(31.0) (0(0.0) : 7(50))]
- 02. ストレスを感じる [4(13.8) (2(18.2) : 1(7.1))]
- 03. 方言で話したい [0(0.0) (0(0.0) : 0(0.0))]
- 04. 仕方がない [11(37.9) (7(63.6) : 4(28.6))]
- 05. その他 [5(17.2) (2(18.2) : 2(14.3))]

※%は、仮に全回答数の合計（全体 29、男性 11、女性 14）を母数として算出。

参考：つくば調査 2012

- 01. さびしい [41(49.4) (15(46.9) : 25(51.0))]
- 02. ストレスを感じる [15(18.1) (7(21.9) : 8(16.3))]
- 03. 方言で話したい [8(9.6) (4(12.5) : 3(6.1))]
- 04. その他 [19(22.9) (6(18.8) : 13(26.5))]

※%は、仮に全回答数の合計（全体 83、男性 32、女性 49）を母数として算出。

A01. と A02. のどちらか、あるいは両方で「減った」と回答した人の理由である。2015 年度調査では、理由の選択肢として 2012 年度調査の「その他」の具体的な回答を踏まえて、選択肢「04. 仕方がない」を加えた。その結果、「さびしい」と回答した人の割合がつくば市調査では半分以下の約 2 割になり、代わって「仕方がない」を選択した人が 5 割以上もいた。水戸市調査では「さびしい」と「仕方がない」がともに 3 割以上となっていることを考え合わせると、家族あるいは同郷の人と方言で話す機会が減ったことを「さびしい」と思いつつも「仕方がない」と思っている人が多いということだと考えられる。なお、少数だが 2 つ選択した人や A01. ・A02. で「減った」と回答していない人が回答したのも上記の結果には含まれている。

(2) 顔見知り以外との会話

A04. 震災前と比べて、顔見知りではない方とお話しされる機会はどうなりましたか？

全体 2015

- 01. 増えた [77(43.5) (35(49.3) : 41(42.7))]
- 02. 減った [56(31.6) (18(25.4) : 32(33.3))]
- 03. 変わらない [40(22.6) (18(25.4) : 20(20.8))]

つくば調査 2015

- 01. 増えた [61(50.8) (30(61.2) : 29(43.9))]
- 02. 減った [29(24.2) (8(16.3) : 18(27.3))]
- 03. 変わらない [29(24.2) (11(22.4) : 18(27.3))]

水戸調査 2015

- 01. 増えた [17(29.8) (5(22.7) : 12(40))]
- 02. 減った [27(47.4) (10(45.5) : 14(46.7))]
- 03. 変わらない [11(19.3) (7(31.8) : 2(6.7))]

参考：つくば調査 2012

- 01. 増えた [74(41.6) (34(45.9) : 36(38.3))]
- 02. 減った [63(35.4) (22(29.7) : 36(38.3))]
- 03. 変わらない [40(22.5) (18(24.3) : 21(22.3))]

顔見知りでない人との会話は、避難生活の長期化とともに増加しているのではないかと予想していたが、結果はつくば調査と水戸調査とで大きく違う結果であった。つくばでは5割以上の人が「増えた」と回答し(2012年度調査では4割強)、特に男性は6割を超えているのに対して、水戸調査では「増えた」人は3割に届かず、「減った」人が半数近くであった。その理由はこの結果だけではわからないが、人との関わり方を含めた現在の生活環境の違いが関係しているということであろうか。

A05. 顔見知りではない方とお話しされるときには、どのようなことばで話されますか？

全体 2015

- 01. 方言 [6(3.4) (2(2.8) : 3(3.1))]
- 02. 標準語 [94(53.1) (32(45.1) : 57(59.4))]
- 03. 方言と標準語が交じる [71(40.1) (36(50.7) : 31(32.3))]
- 04. その他 [5(2.8) (1(1.4) : 4(4.2))]

つくば調査 2015

- 01. 方言 [4(3.3) (1(2.0) : 2(3.0))]
- 02. 標準語 [68(56.7) (24(49.0) : 41(62.1))]
- 03. 方言と標準語が交じる [47(39.2) (24(49.0) : 22(33.3))]
- 04. その他 [1(0.8) (0(0) : 1(1.5))]

水戸調査 2015

- 01. 方言 [2(3.5) (1(4.5) : 1(3.3))]
- 02. 標準語 [26(45.6) (8(36.4) : 16(53.3))]
- 03. 方言と標準語が交じる [24(42.1) (12(54.5) : 9(30))]
- 04. その他 [4(7.0) (1(4.5) : 3(10))]

参考：つくば調査 2012

- | | |
|----------------|-----------------------------------|
| 01. 方言 | [17(9.6) (10(13.5) : 7(7.4))] |
| 02. 標準語 | [89(50) (38(51.4) : 48(51.1))] |
| 03. 方言と標準語が交じる | [70(39.3) (26(35.1) : 37(39.4))] |
| 04. その他 | [7(3.9) (5(6.8) : 2(2.1))] |

顔見知りでない人との会話は、2012 年度調査と 2015 年度調査、つくば市調査と水戸市調査とで、回答の割合に違いがあるものの、全体的な傾向としては類似している。すなわち、顔見知りでない人との会話では「標準語」が半数前後と最も多く、次いで「方言と共通語が交じる」が多く、「方言」で話すとは回答したのは少数である。ただし、男女別に見ると 2015 年度調査では両市とも「標準語」は女性に多く、「方言と標準語が交じる」は男性に多い（特に水戸調査では男性の 5 割以上）という男女差が見られる。

(3)現在の居住地の人との会話

A06. 現在、お住いの地域の方とお話しされる機会はどうですか？

全体 2015

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 01. 話す機会がある | [103(58.2) (43(60.6) : 57(59.4))] |
| 02. 話す機会はない | [73(41.2) (28(39.4) : 38(39.6))] |

つくば調査 2015

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| 01. 話す機会がある | [75(62.5) (32(65.3) : 41(62.1))] |
| 02. 話す機会はない | [45(37.5) (17(34.7) : 25(37.9))] |

水戸調査 2015

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| 01. 話す機会がある | [28(49.1) (11(50) : 16(53.3))] |
| 02. 話す機会はない | [28(49.1) (11(50) : 13(43.3))] |

参考：つくば調査 2012

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 01. 話す機会がある | [120(67.4) (50(67.6) : 63(67.0))] |
| 02. 話す機会はない | [53(29.8) (23(31.1) : 27(28.7))] |

全体としては「話す機会がある」と回答した人の方が多いが、つくば市の 2012 年度調査と 2015 年度調査を比較すると、その割合はわずかだが減少している。また、水戸市調査では「話す機会がある」と「話す機会がない」と半々である。A04. の顔見知りでない人との会話と同じように、震災後、時間の経過とともに現在住んでいる地域の人との関わりも増えているのではないかと予想していたが、結果はその反対であった。

A07. (上の A06. で「01. 話す機会がある」という方にうかがいます) お住いの地域の方とお

話しされるときには、どのようなことばで話されますか？

全体 2015

- 01. 方言 [5(4.9) (2(4.7) : 3(5.3))]
- 02. 標準語 [62(60.2) (25(58.1) : 35(61.4))]
- 03. 方言と標準語が交じる [43(41.7) (22(51.2) : 18(31.6))]
- 04. その他 [4(3.9) (2(4.7) : 2(3.5))]

※%はA06.で01を回答した「全体103、男性43、女性57」を母数として算出。

つくば調査 2015

- 01. 方言 [4(5.3) (1(13.1) : 3(7.3))]
- 02. 標準語 [52(69.3) (22(68.8) : 28(68.3))]
- 03. 方言と標準語が交じる [28(37.3) (16(50) : 12(29.3))]
- 04. その他 [1(1.3) (1(3.1) : 0(0.0))]

※%はA06.で01を回答した「全体75、男性32、女性41」を母数として算出。

水戸調査 2015

- 01. 方言 [1(3.6) (1(9.1) : 0(0.0))]
- 02. 標準語 [10(35.7) (3(27.3) : 7(43.5))]
- 03. 方言と標準語が交じる [15(53.6) (6(54.5) : 6(37.5))]
- 04. その他 [3(10.7) (1(9.1) : 2(12.5))]

※%はA06.で01を回答した「全体28、男性11、女性16」を母数として算出。男女別の回答者数の割合は参考数値。

参考：つくば調査 2012

- 01. 方言 [13(10.8) (5(10) : 8(12.7))]
- 02. 標準語 [49(40.8) (20(40) : 27(42.9))]
- 03. 方言と標準語が交じる [64(53.3) (27(54) : 31(49.2))]
- 04. その他 [4(2.2) (2(4) : 2(3.2))]

※%はA06.で01を回答した「全体120、男性50、女性63」を母数として算出。

現在住んでいる地域の人との会話では、2012年度調査と2015年度調査、つくば市調査と水戸市調査とで、かなり結果が異なっている。つくば市では2012年度調査に比べて「標準語」が30ポイント近くも増えて全体の約7割となり、一方、「方言と標準語が交じる」は16ポイントも減少している。つくば市調査と水戸市調査でも、つくば市で「標準語」の回答が7割弱と多く、水戸市では「方言と標準語が交じる」が5割以上と多かった。しかし、男女別に見ると数値は違うものの女性のほうが「標準語」の回答割合が高く、A05.の「顔見知りでない人との会話」で使うことばの結果と同様の傾向である。

2.2 「B 方言の問題や効用」

(1) 方言使用における問題 *提示資料(=省略)を参照しながらの回答

B01. 震災後、ことばや方言のことでなにか困ったり、嫌な思いをしたりといったことはありませんでしたか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。(複数回答可)

全体 2015

01. 方言が通じなかった [25(14.1) (8(11.3) : 16(16.7))]
02. 方言が話せない [19(10.7) (10(14.1) : 7(7.3))]
03. 方言を馬鹿にされた [7(4.0) (3(4.2) : 4(4.2))]
04. 避難先の方言がわからない [25(14.1) (11(15.6) : 12(12.5))]
05. その他 [34(19.2) (11(15.5) : 21(21.9))]
(「特になし」※・無回答 [84(47.5) (34(47.9) : 47(49.0))])
※「05. その他」に、「特になし」等と回答したもの。以下、同じ。

つくば調査 2015

01. 方言が通じなかった [17(14.2) (6(12.2) : 11(16.7))]
02. 方言が話せない [14(11.7) (7(14.3) : 6(9.1))]
03. 方言を馬鹿にされた [7(5.8) (3(6.1) : 4(6.1))]
04. 避難先の方言がわからない [16(13.3) (7(14.3) : 9(13.6))]
05. その他 [28(23.3) (11(22.4) : 16(24.2))]
(「特になし」・無回答 [53(41.2) (20(40.8) : 30(45.5))])

水戸調査 2015

01. 方言が通じなかった [8(14.0) (2(9.1) : 5(16.7))]
02. 方言が話せない [5(8.8) (3(13.6) : 1(3.3))]
03. 方言を馬鹿にされた [0(0.0) (0(0.0) : 0(0.0))]
04. 避難先の方言がわからない [9(15.8) (4(18.2) : 3(10))]
05. その他 [6(10.5) (0(0.0) : 5(16.7))]
(「特になし」・無回答 [31(54.4) (14(63.6) : 17(56.7))])

参考：つくば調査 2012

01. 方言が通じなかった [19(10.7) (11(14.9) : 8(8.5))]
02. 方言が話せない [19(10.7) (8(10.8) : 11(11.7))]
03. 方言を馬鹿にされた [4(2.2) (3(4.1) : 1(1.1))]
04. 避難先の方言がわからない [22(11.2) (9(12.2) : 13(13.8))]
05. その他 [34(19.1) (12(16.2) : 20(21.3))]
(無回答 [93(52.2) (36(48.6) : 49(52.1))])

全体としても、両市とも、「その他」と「特になし」・無回答が多い。それ以外の回答では、「方言が通じなかった」「避難先の方言がわからない」等がつくば市調査でわずかながら増えており、水戸市調査でもこの2つの選択肢の回答が比較的多い。このことから、時間がたつにつれて方言が通じなかったりわからなかったりという経験が多くなっているのではないかと推測される。

(2) 方言パンフレット等の必要性への意識 * 提示資料 (=省略) を参照しながらの回答

B02. 東日本大震災の被災地へ支援に来た医療関係者などのために、被災地の方言を簡単に説明したパンフレット等がいくつか作られています。被災地の支援活動を行う上で、こうした方言パンフレットは必要なものだと思いますか？

全体 2015

01. 必要だ	[50(28.2) (20(28.2) : 29(30.2))]
02. 必要ではない	[33(18.6) (13(18.3) : 18(18.8))]
03. どちらともいえない	[89(50.3) (37(52.1) : 45(46.9))]

つくば調査結果 2015

01. 必要だ	[35(29.2) (16(32.7) : 19(28.8))]
02. 必要ではない	[25(20.8) (11(22.4) : 13(19.7))]
03. どちらともいえない	[58(48.3) (22(44.9) : 32(48.5))]

水戸調査結果 2015

01. 必要だ	[15(26.3) (4(18.2) : 10(33.3))]
02. 必要ではない	[8(14.0) (2(9.1) : 5(16.7))]
03. どちらともいえない	[31(54.4) (15(68.2) : 13(43.3))]

参考：つくば調査 2012

01. 必要だ	[54(30.3) (23(31.1) : 28(29.8))]
02. 必要ではない	[39(21.9) (19(25.7) : 17(18.1))]
03. どちらともいえない	[75(42.1) (30(40.5) : 43(45.7))]

「どちらともいえない」がどの調査でも最も多い。「必要だ」も「必要ではない」もつくば市調査では2012年度と2015年度と顕著な変化はない。水戸市調査では「必要だ」も「必要ではない」も他の調査よりもやや少なく、「どちらともいえない」が54.4%と多い。全体として「どちらともいえない」が約半数という結果の要因として、方言エール・スローガンに対する受け止め方が多様であることがあるだろう。それについては、B04. で具体的に見ていく。

(3) 方言エール・スローガン等への意識 *提示資料 (=省略) を参照しながらの回答

B03. 震災後、「がんばっぺ福島」「けっばれ東北」のように、被災地各地の方言を使ったかけ声（方言エールや方言スローガン）が見聞きされました。こうした方言によるかけ声を見聞きする機会は、最近ではいかがですか？ ※2015年度のみ調査項目

全体 2015

01. よく見聞きする	[13(7.3) (7(10.9) : 6(6.3))]
02. ときどき	[79(44.6) (41(57.7) : 53(55.2))]
03. ほとんど見かけない	[61(34.5) (21(29.6) : 35(36.5))]

つくば調査 2015

01. よく見聞きする	[12(10) (6(12.2) : 6(9.1))]
02. ときどき	[72(60) (29(59.2) : 40(60.6))]
03. ほとんど見かけない	[35(29.2) (13(26.5) : 20(30.3))]

水戸調査 2015

01. よく見聞きする	[1(1.8) (1(4.5) : 0(0.0))]
02. ときどき	[27(47.4) (12(54.5) : 13(43.3))]

03. ほとんど見かけない [26(45.6) (8(36.4) : 15(50))]

2015年度に新たに追加した設問である。震災直後からしばらくの間は至るところで目にした方言エール・スローガンだが、あまり見かけなくなっている状況が、上の結果から確認できる。

B04. 震災後、「がんばっぺ福島」「けっばれ東北」のように、被災地各地の方言を使ったかけ声（方言エールや方言スローガン）が聞かれました。こうした方言によるかけ声は皆さんの力になりましたか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。（複数回答可）

全体 2015

01. 親しみがもてる	[73(41.2) (29(40.8) : 42(43.8))]
02. 励まされる	[37(20.9) (18(25.4) : 17(17.7))]
03. 見たくない、不愉快だ	[12(6.8) (3(4.2) : 7(7.3))]
04. がんばりたなくなる	[11(6.2) (5(7.0) : 6(6.3))]
05. 特に何も感じない	[18(10.2) (10(14.1) : 7(7.3))]
06. 馬鹿にされているようだ	[8(4.5) (4(5.6) : 3(3.1))]
07. その他	[10(5.6) (5(7.0) : 5(5.2))]

つくば調査 2015

01. 親しみがもてる	[52(43.3) (20(40.8) : 31(47.0))]
02. 励まされる	[27(22.5) (13(26.5) : 13(19.7))]
03. 見たくない、不愉快だ	[10(8.3) (2(4.1) : 6(9.1))]
04. がんばりたなくなる	[7(5.8) (2(4.1) : 5(7.6))]
05. 特に何も感じない	[16(13.3) (9(18.4) : 7(10.6))]
06. 馬鹿にされているようだ	[7(5.8) (3(6.1) : 3(4.5))]
07. その他	[7(5.8) (4(8.2) : 3(4.5))]

水戸調査 2015

01. 親しみがもてる	[21(36.8) (9(40.9) : 11(36.7))]
02. 励まされる	[10(17.5) (5(22.7) : 4(13.3))]
03. 見たくない、不愉快だ	[2(3.5) (1(4.5) : 1(3.3))]
04. がんばりたなくなる	[4(7.0) (3(13.6) : 1(3.3))]
05. 特に何も感じない	[2(3.5) (1(4.5) : 0(0.0))]
06. 馬鹿にされているようだ	[1(1.8) (1(4.5) : 0(0.0))]
07. その他	[3(5.3) (1(4.5) : 2(6.7))]

参考：つくば調査 2012

01. 親しみがもてる	[102(57.3) (41(55.4) : 54(57.4))]
02. 励まされた	[57(32.0) (21(28.4) : 35(37.2))]
03. 特に何も感じない	[34(19.1) (17(23.0) : 16(17.0))]
04. 馬鹿にされているようだ	[12(6.7) (6(8.1) : 4(4.3))]
05. その他	[15(8.4) (6(8.1) : 9(9.6))]

2015年度調査では、2012年度調査の「その他」等での回答を踏まえて、回答の選択肢に「見たくない、不愉快だ」「がんばりたくなくなる」を加えた。「親しみがもてる」「励まされた」と回答した人が、2012年度調査同様に多く（その数値はいずれも2015年度調査のほうがかなり少ないが）、地元の方言でのエール・スローガンが好意的に受け止められたことがわかる。しかし、「見たくない、不愉快だ」「がんばりたくなくなる」や「馬鹿にされているようだ」あるいは「特に何も感じない」と回答した人が一定数あることから、方言エール・スローガンが必ずしも好意的に受け止められていない場合もあることがわかる。避難されている方のそれぞれの状況が一人一人違っているということから、受け止め方も多様なものとなっているのではないかと思われる。また、「親しみがもてる」「励まされた」とともに「がんばりたくなくなる」とも回答している人がいることから、同じ人でもその時々によって感じ方は一様ではないと推測される。

B05. 「がんばろう東北」「がんばろう茨城」のような共通語によるかけ声については、皆さんの力になりましたか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。（複数回答可）

全体 2015

01. 親しみがもてる	[82(46.3) (35(49.3) : 44(45.8))]
02. より励まされる気がする	[50(28.2) (19(26.8) : 28(29.2))]
03. 励まされた感じがしない	[10(5.6) (2(2.8) : 8(8.3))]
04. 見たくない、不愉快だ	[3(1.7) (0(0) : 2(2.1))]
05. 特に何も感じない	[36(20.3) (15(21.1) : 21(21.9))]
06. 馬鹿にされているようだ	[3(1.7) (3(4.2) : 0(0))]
07. その他	[15(8.5) (8(11.3) : 7(7.3))]
(無回答)	[20(11.3) (7(9.9) : 9(9.4))]

つくば調査 2015

01. 親しみがもてる	[56(46.7) (24(49.0) : 32(48.5))]
02. より励まされる気がする	[36(30) (15(30.6) : 19(28.8))]
03. 励まされた感じがしない	[6(5) (0(0) : 6(9.1))]
04. 見たくない、不愉快だ	[3(2.5) (0(0) : 2(3.0))]
05. 特に何も感じない	[26(21.7) (10(20.4) : 16(24.2))]
06. 馬鹿にされているようだ	[3(2.5) (3(6.1) : 0(0.0))]
07. その他	[11(9.2) (7(14.3) : 4(6.1))]
(無回答)	[11(9.2) (4(8.2) : 5(7.6))]

水戸調査 2015

01. 親しみがもてる	[26(45.6) (11(50) : 12(40))]
02. より励まされる気がする	[14(24.6) (4(18.2) : 9(30))]
03. 励まされた感じがしない	[4(7.0) (2(9.1) : 2(6.7))]
04. 見たくない、不愉快だ	[0(0.0) (0(0.0) : 0(0.0))]
05. 特に何も感じない	[10(17.5) (5(22.7) : 5(16.7))]
06. 馬鹿にされているようだ	[0(0) (0(0) : 0(0))]
07. その他	[4(7.0) (1(4.5) : 3(10))]
(無回答)	[9(15.8) (3(13.6) : 4(13.3))]

参考：つくば調査 2012

01. 親しみがもてる	[85(47.8) (31(41.9) : 47(50.))]
02. より励まされる気がする	[71(39.9) (27(36.5) : 40(42.6))]
03. 励まされた感じがしない	[17(9.6) (6(8.1) : 11(11.7))]
04. 特に何も感じない	[35(19.7) (23(31.1) : 11(11.7))]
05. 馬鹿にされているようだ	[3(1.7) (3(4.1) : 0(0))]
06. その他	[15(8.4) (6(8.1) : 8(8.5))]

2015年度調査では、B04.と同様に2012年度調査結果を踏まえて、回答の選択肢に「見たくない、不愉快だ」を加えた。「親しみがもてる」「より励まされた」と回答した人が、2012年度調査同様に多く、共通語によるエール・スローガンも好意的に受け取られていることがわかる。なお、「より励まされた」は2012年度調査では約4割だったのに比べて2015年度調査では3割弱と少なくなっている。また、「特に何も感じない」と回答した人が一定数あることや「励まされた感じがしない」等のマイナスの回答も少数ながらあることから、共通語エール・スローガンも必ずしも好意的に受け止められていない場合があることがわかる。

ところで、「親しみがもてる」についてB04.の回答と比べてみると、ふるさとの方言でのエールやスローガンよりも共通語のエール・スローガンのほうがやや割合が高い。また、2012年度調査と比較しても、つくば市調査では方言エール・スローガンへの「親しみがもてる」の割合は大幅に減少しているのに対して、共通語のエール・スローガンへの「親しみがもてる」の割合はほとんど変わっていない。時間の経過とともに方言エール・スローガンへの感じ方が変化しているということなのであろうか。

B06. 「がんばってや東北」「ちばりよー福島」のような他地域の方言エールやスローガンについてはいかがですか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。（複数回答可） ※項目番号は調査票では「B05.」（各3ページ目）となっている。

全体 2015

01. 親しみがもてる	[42(23.7) (18(25.4) : 22(22.9))]
02. より励まされる気がする	[25(14.1) (11(15.5) : 14(14.6))]
03. 励まされた感じがしない	[7(4.0) (4(5.6) : 3(3.1))]
04. 特に何も感じない	[12(6.8) (7(9.9) : 3(3.1))]
05. 馬鹿にされているようだ	[1(0.6) (1(1.4) : 0(0))]
06. 意図が不明だ	[10(5.6) (6(8.5) : 4(4.2))]
07. 見たことがない	[99(55.9) (34(47.9) : 60(62.5))]
08. その他	[4(2.3) (3(4.2) : 1(1.0))]

つくば調査 2015

01. 親しみがもてる	[35(29.2) (12(24.5) : 21(31.8))]
02. より励まされる気がする	[22(18.3) (9(18.4) : 13(19.7))]
03. 励まされた感じがしない	[6(5.0) (3(6.1) : 3(4.5))]
04. 特に何も感じない	[11(9.2) (7(14.3) : 3(4.5))]
05. 馬鹿にされているようだ	[0(0) (0(0) : 0(0))]
06. 意図が不明だ	[9(7.5) (5(10.2) : 4(6.1))]

07. 見たことがない [58(48.3) (21(42.9) : 35(53.0))]
 08. その他 [3(2.5) (3(6.1) : 0(0))]

水戸調査 2015

01. 親しみがもてる [7(12.3) (6(27.3) : 1(3.3))]
 02. より励まされる気がする [3(5.3) (2(9.1) : 1(3.3))]
 03. 励まされた感じがしない [1(1.8) (1(4.5) : 0(0.0))]
 04. 特に何も感じない [1(1.8) (0(0) : 0(0))]
 05. 馬鹿にされているようだ [1(1.8) (1(4.5) : 0(0))]
 06. 意図が不明だ [1(1.8) (1(4.5) : 0(0))]
 07. 見たことがない [41(71.9) (13(59.1) : 25(83.3))]
 08. その他 [1(1.8) (0(0) : 1(3.3))]

参考：つくば調査 2012

01. 親しみがもてる [66(37.1) (26(35.1) : 36(38.3))]
 02. より励まされる気がする [44(24.7) (17(23.0) : 25(26.6))]
 03. 励まされた感じがしない [17(9.6) (6(8.1) : 10(10.6))]
 04. 特に何も感じない [30(16.9) (22(29.7) : 7(7.4))]
 05. 馬鹿にされているようだ [5(2.8) (0(0) : 4(4.3))]
 06. 意図が不明 [21(11.8) (8(10.8) : 12(12.8))]
 07. 見たことがない [37(20.8) (10(13.5) : 25(26.6))]
 08. その他 [11(6.2) (2(2.7) : 7(7.4))]

2012年度調査では、回答が様々であったが、2015年度調査では「見たことがない」が最も多かった。次いで、好意的に受け止めている「親しみがもてる」「より励まされる」であるが、方言エール・スローガンや共通語エール・スローガンに比べて明らかに少ない。

2. 3 「C 文化としての方言保存・継承、方言への愛着・評価について」

(1)被災地や避難地区の地域文化・文化財の保護や祭りの復興の取り組みへの評価

C01. 被災地や避難地区の地域文化・文化財を保護したり、お祭りを復興させたりという取り組みも盛んです。こうした取り組みについて、どう思いますか？「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。（複数回答可）

全体 2015

01. 必要だと思う [130(73.4) (53(74.6) : 72(75))]
 02. 心の支えになる [65(36.7) (20(28.2) : 38(39.6))]
 03. 不要だ [6(3.4) (5(7.0) : 1(1.0))]
 04. 優先順位が違う [16(9.0) (6(8.5) : 10(10.4))]
 05. その他 [11(6.2) (4(5.6) : 6(6.3))]

つくば調査 2015

01. 必要だと思う [87(72.5) (38(77.6) : 48(72.7))]
 02. 心の支えになる [45(37.5) (14(28.6) : 28(42.4))]
 03. 不要だ [4(3.3) (3(6.1) : 1(1.5))]
 04. 優先順位が違う [10(8.3) (4(8.2) : 6(9.1))]

05. その他 [9(7.5) (3(6.1) : 5(7.6))]

水戸調査 2015

01. 必要だと思う [43(75.4) (15(68.2) : 24(80))]

02. 心の支えになる [20(35.1) (6(27.3) : 10(33.3))]

03. 不要だ [2(3.5) (2(9.1) : 0(0.0))]

04. 優先順位が違う [6(10.5) (2(9.1) : 4(13.3))]

05. その他 [2(3.5) (1(4.5) : 1(3.3))]

参考：つくば調査 2012

01. 必要だと思う [110(61.8) (52(70.3) : 54(57.4))]

02. 心の支えになる [78(43.8) (30(40.5) : 42(44.7))]

03. 不要だ [9(5.1) (2(2.7) : 7(7.4))]

04. 優先順位が違う [22(12.4) (7(9.5) : 14(14.9))]

05. その他 [15(8.4) (5(6.8) : 8(8.5))]

地域文化・文化財の保護やお祭りの復興等の取り組みについて、2012年度調査に比べて「必要だと思う」が10ポイント以上増え、「優先順位が違う」が少なくなっている。また、このような取り組みが「心の支えになる」と回答した人は、2012年度調査よりもやや少なくなっているものの3分の1以上の人からの回答があり、特に女性からの回答が多かった。

(2) 方言保存の取り組みへの評価

C02. 私たちは、ふるさとのつながりを考えるうえで「方言」は大変重要なものだと考えています。方言を保存しようという取り組みについては、どう思いますか? 「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。(複数回答可)

全体調査 2015

01. 必要だと思う [126(71.2) (53(74.6) : 69(71.9))]

02. 心の支えになる [55(31.1) (13(18.3) : 35(36.5))]

03. 不要だ [12(6.8) (6(8.5) : 6(6.3))]

04. 優先順位が違う [10(5.6) (6(8.5) : 3(3.1))]

05. その他 [15(8.5) (7(9.9) : 7(7.3))]

つくば調査 2015

01. 必要だと思う [83(69.2) (37(75.5) : 45(68.2))]

02. 心の支えになる [36(30) (10(20.4) : 23(34.8))]

03. 不要だ [11(9.2) (5(10.2) : 6(9.1))]

04. 優先順位が違う [6(5) (3(6.1) : 3(4.5))]

05. その他 [12(10) (5(10.2) : 6(9.1))]

水戸調査 2015

01. 必要だと思う [43(75.4) (16(72.7) : 24(80))]

02. 心の支えになる [19(33.3) (3(13.6) : 12(40))]

03. 不要だ [1(1.8) (1(4.5) : 0(0))]

04. 優先順位が違う [4(7.0) (3(13.6) : 0(0))]
 05. その他 [3(5.3) (2(9.1) : 1(3.3))]

参考：つくば調査 2012

01. 必要だと思う [107(60.1) (52(70.3) : 51(54.3))]
 02. 心の支えになる [56(31.5) (22(29.7) : 29(30.9))]
 03. 不要だ [11(6.2) (5(6.8) : 5(5.3))]
 04. 優先順位が違う [17(9.6) (8(10.8) : 9(9.6))]
 05. その他 [17(9.6) (4(5.4) : 13(13.8))]

方言保存の取り組みについて、2012年度調査に比べて「必要だと思う」が全体で10ポイント以上増えている。また、このような取り組みが「心の支えになる」と回答した人も、2012年度調査とほぼ同じく3割以上の回答があり、上のC01.と同様に女性からの回答が多かった。

(3) 文化庁の方言の保存・継承への取り組み支援への評価

C03. 今回の災害で皆さんのご出身地の方言が失われることがないように、国の機関である文化庁は保存・継承への取り組みを支援したいと考えています。こうした取り組みについては、どう思いますか？「そうだ」と思うものいくつでも○を付けてください。（複数回答可）

全体調査 2015

01. 必要だと思う [93(52.5) (40(56.3) : 47(49.0))]
 02. 心の支えになる [45(25.4) (15(21.1) : 24(25))]
 03. 継続したほうがいい [71(40.1) (23(32.4) : 45(46.9))]
 04. 不要だ [17(9.6) (8(11.3) : 8(8.3))]
 05. 優先順位が違う [10(5.6) (5(7.0) : 5(5.2))]
 06. その他 [12(6.8) (5(7.0) : 7(7.3))]

つくば調査 2015

01. 必要だと思う [62(51.7) (28(57.1) : 31(47.0))]
 02. 心の支えになる [33(27.5) (12(24.5) : 18(27.3))]
 03. 継続したほうがいい [45(37.5) (14(28.6) : 30(45.5))]
 04. 不要だ [15(12.5) (7(14.3) : 8(12.1))]
 05. 優先順位が違う [9(7.5) (4(8.2) : 5(7.6))]
 06. その他 [7(5.8) (3(6.1) : 4(6.1))]

水戸調査 2015

01. 必要だと思う [31(54.4) (12(54.5) : 16(53.3))]
 02. 心の支えになる [12(21.1) (3(13.6) : 6(20))]
 03. 継続したほうがいい [26(45.6) (9(40.9) : 15(50))]
 04. 不要だ [2(3.5) (1(4.5) : 0(0.0))]
 05. 優先順位が違う [1(1.8) (1(4.5) : 0(0.0))]
 06. その他 [5(8.8) (2(9.1) : 3(10))]

参考：つくば調査 2012

- | | |
|-------------|-----------------------------------|
| 01. 必要だと思う | [98(55.1) (48(64.9) : 46(48.9))] |
| 02. 心の支えになる | [49(27.5) (17(23.0) : 28(29.8))] |
| 03. 不要だ | [25(14.0) (10(13.5) : 14(14.9))] |
| 04. 優先順位が違う | [24(13.5) (8(10.8) : 14(14.9))] |
| 05. その他 | [7(9.6) (3(4.1) : 3(3.2))] |

2015年度調査では、文化庁の行っている方言保存の取り組みの簡単な内容を設問に示すとともに、回答の選択肢に「継続したほうがいい」を加えた。結果は、C02.と同様に「必要だと思う」が5割を超えて最も多く、次いで「継続したほうがいい」が全体で4割となった。「心の支えになる」も全体で約26%であり、今後も継続すべき取り組みと考えられよう。「不要だ」「優先順位が違う」と回答した人もあったが、2012年度調査に比べて少なくなっている。

(4)ふるさとの方言への態度

C04. あなたはふるさと（ご出身地）の方言はお好きですか？

全体調査 2015

- | | |
|---------------|-----------------------------------|
| 01. 好き | [96(54.2) (34(47.9) : 56(58.3))] |
| 02. 嫌い | [1(0.6) (1(1.4) : 0(0))] |
| 03. どちらともいえない | [76(42.9) (35(49.3) : 37(38.5))] |

つくば調査 2015

- | | |
|---------------|-----------------------------------|
| 01. 好き | [64(53.3) (24(49.0) : 37(56.1))] |
| 02. 嫌い | [1(0.8) (1(2.0) : 0(0))] |
| 03. どちらともいえない | [53(44.2) (23(46.9) : 28(42.4))] |

水戸調査 2015

- | | |
|---------------|-----------------------------------|
| 01. 好き | [32(56.1) (10(45.5) : 19(63.3))] |
| 02. 嫌い | [0(0) (0(0) : 0(0))] |
| 03. どちらともいえない | [23(40.4) (12(54.5) : 9(30))] |

参考：つくば調査 2012

- | | |
|---------------|------------------------------------|
| 01. 好き | [109(61.2) (45(60.8) : 58(61.7))] |
| 02. 嫌い | [4(2.2) (1(1.4) : 3(3.2))] |
| 03. どちらともいえない | [63(35.4) (29(39.2) : 32(34.0))] |

ふるさとのことばに対する好悪である。「好き」が最も多く半数以上だが、「どちらともいえない」も4割を超えて多い。一方、2012年度調査では4人(2.2%)であった「嫌い」が、2015年度調査では1人(0.6%)であった。なおこの結果は、田中・前田(2012)「話者分類に基づく地域類型化の試み—全国方言意識調査データを用いた潜在クラス分析による検討—」(『国立国語研究所論集』3)で示されている分類で、東北地方が生育地である回答者の「クラス4：積極的使い分け派」が、生育地方言を好きと答えた数値よりもかなり低い。次のC05.の結果も同様の傾向である。

C05. あなたはふるさと（ご出身地）の方言に愛着を感じますか？

全体調査 2015

01. 愛着を感じる [121(67.8) (42(59.2) : 71(74.0))]
02. 愛着はない [11(6.2) (6(8.5) : 5(5.2))]
03. どちらともいえない [41(23.2) (21(29.6) : 18(18.8))]

つくば調査 2015

01. 愛着を感じる [80(66.7) (28(57.1) : 49(74.2))]
02. 愛着はない [8(6.7) (5(10.2) : 3(4.5))]
03. どちらともいえない [30(25) (14(28.6) : 14(21.2))]

水戸調査 2015

01. 愛着を感じる [41(71.9) (14(63.6) : 22(73.3))]
02. 愛着はない [3(5.3) (1(4.5) : 2(6.7))]
03. どちらともいえない [11(19.3) (7(31.8) : 4(13.3))]

参考：つくば調査 2012

01. 愛着を感じる [115(64.6) (48(64.9) : 62(66.0))]
02. 愛着はない [11(6.2) (5(6.8) : 6(6.4))]
03. どちらともいえない [48(27.0) (20(27.0) : 25(26.6))]

ふるさとの方言への愛着は、「愛着を感じる」と回答した人が7割近くとかなり多い。特に水戸調査では多い。上のC04.の結果と考えあわせると、ふるさとの方言は「好き」だともでは言えないが「愛着を感じる」という人が一定数いることがわかる。

C06. ご自分のお子さんやお孫さんなどの若い世代に、ふるさと（ご出身地）の方言を受け継いでいってほしいと思いますか？また、若い世代の皆さんは、ふるさとの方言を受け継ぎたいと思いますか？

全体調査 2015

01. 思う [46(26.0) (17(23.9) : 26(27.1))]
02. 思わない [44(24.0) (20(28.2) : 23(24.0))]
03. どちらともいえない [85(48.0) (33(46.5) : 46(47.9))]

つくば調査 2015

01. 思う [36(30) (14(28.6) : 21(31.8))]
02. 思わない [32(26.7) (15(30.6) : 17(25.8))]
03. どちらともいえない [52(43.3) (19(38.8) : 29(43.9))]

水戸調査 2015

01. 思う [10(17.5) (3(13.6) : 5(16.7))]
02. 思わない [12(21.1) (5(22.7) : 6(20))]
03. どちらともいえない [33(57.9) (14(63.6) : 17(56.7))]

参考：つくば調査 2012

- 01. 思う [49(27.5) (23(31.1) : 25(26.6))]
- 02. 思わない [36(20.2) (15(20.3) : 19(20.2))]
- 03. どちらともいえない [94(52.8) (37(50) : 53(56.4))]

子や孫といった若い世代にふるさとの方言を受け継いでいってほしいと回答している人は、2012年度も2015年度も3割に満たない。水戸調査では2割未満である。一方、「思わない」と回答した人も「思う」と回答した人よりも全体としてはやや少ないものの（水戸調査では「思う」よりも「思わない」の方が多い）、その差はわずかである。多くの人は「どちらともいえない」と回答している。

C07. (上のC06.で「02. 思わない」とお答えになった方にうかがいます) お子さんやお孫さんに、ふるさとの方言を受け継いでほしくないと思う、あるいは若い世代の方が方言を受け継ぎたいと思わないのは、なぜですか? 「そうだ」と思うものいくつかでも○を付けてください。(複数回答可)

全体調査 2015

- 01. 方言が嫌いだから [0(0) (0(0) : 0(0))]
- 02. 都会に出たら困ると思うから [37(74) (19(79.2) : 18(72))]
- 03. 出身地が知られないようにしたい [4(8) (1(4.2) : 2(8))]
- 04. その他 [14(28) (6(25) : 8(32))]

※回答者数はC06.の「02. 思わない」回答者以外を含めた「全体 50, 男性 24, 女性 25」

つくば調査 2015

- 01. 方言が嫌いだから [0(0) (0(0) : 0(0))]
- 02. 都会に出たら困ると思うから [28(73.7) (14(73.7) : 14(73.7))]
- 03. 出身地が知られないようにしたい [2(5.3) (1(5.3) : 1(5.3))]
- 04. その他 [11(28.9) (5(26.3) : 6(31.6))]

※回答者数はC06.の「02. 思わない」回答者以外を含めた「全体 38, 男性 19, 女性 19」。男女別の回答者数の割合は参考数値。

水戸調査 2015

- 01. 方言が嫌いだから [0(-) (0(-) : 0(-))]
- 02. 都会に出たら困ると思うから [9(-) (5(-) : 4(-))]
- 03. 出身地が知られないようにしたい [2(-) (0(-) : 1(-))]
- 04. その他 [3(-) (1(-) : 2(-))]

※回答者数はC06.の「02. 思わない」回答者以外を含めた「全体 12, 男性 5, 女性 6」
回答者数が少ないため、%は出していない。

参考：つくば調査 2012

- 01. 方言が嫌いだから [1(2.2) (0(0) : 1(3.6))]
- 02. 都会に出たら困ると思うから [29(63.0) (10(62.9) : 17(60.7))]
- 03. 出身地が知られないようにしたい [5(10.9) (0(0) : 5(17.9))]
- 04. その他 [17(37.0) (6(37.5) : 11(39.3))]

※回答者数はC06.の「02.思わない」回答者以外を含めた「全体46, 男性16, 女性28」

若い世代にふるさとの方言を受け継いでほしくない、あるいは若い世代の人が方言を受け継ぎたいと思わない理由として、2012年度調査結果以上に、「都会に出たら困るから」が多い。

2.4 「D・E 自由記述」

(1)D 自由記述：現在の暮らしの中で方言を使うことについての思い

D 県外に避難されている暮らしの中で、ふるさと（ご出身地）の方言を聞いたり話したりすることについて、どのように思われますか？お感じになることについて、お教えてください。

(例) ほっとして心がなごむ。 / やっぱりふるさとの方言はいいなあと思う。 / 同郷の人と話す、がんばろうという気持ちがわいてくる。 / 等

全体調査 2015

回答者 [全体 140(79.1) (男性 51(71.8) : 女性 82(85.4) : 性不明 7(-))]

つくば調査 2015

回答者 [全体 95(79.2) (男性 35(71.4) : 女性 57(86.4) : 性不明 3(-))]

水戸調査 2015

回答者 [全体 45(78.9) (男性 16(72.7) : 女性 25(83.3) : 性不明 4(-))]

調査票の設問は上記のとおりであり、調査票内の例示を指摘した回答も含めて自由記述の内容によって4つに大別した。それぞれの分類に該当する回答の一部を紹介する。具体的な記述は、表現の統一などの若干の修正を行ったが、概ねお書きいただいたとおりである。また、意見のあとの()内には、回答者の「年代、性別」(性別不明の回答者の記述は年代の実)を示す。なお、10代・20代の回答については、回答者数そのものが少ないので、性別は示していない。

①ふるさとの方言に安らぎ・良さ・温かさを感じる、力づけられる

- ・各地に散らばった同郷の人と電話でお話するのが今は一番の楽しみです。高齢な私等にはなかなか若い人々の中に入って行くことは勇気のいることです。(後略)(80代女性)
- ・ほっとしてふるさとに帰りたいと思います。(70代女性)
- ・年に5,6回程度、同郷の集いがあり、その際はできる限り方言を使って話すようにしている。それを機会に新たな出発をがんばる気力にしている。(60代男性)
- ・心がほっとして穏やかな気持ちになり、すぐに帰りてえなと思います。そんな話ばかりしています。(帰りてえ。かえりてえな。)(60代女性)
- ・説明を加えなくても話を通じ、ストレス解消にもつながる。(60代女性)
- ・標準語で過ごして居るが今は故郷の言葉がなつかしく暖か味があるので時々思い出している。(80代女性)

②ふるさとの方言はいいと思うが、今の暮らしでは必要ない／使わないようにしている

- ・ほっとして心がなごみますが、今南関東地域に住んでいて、東京在住だった人達が多い中での会話で、一番気になるのは「アクセント」です。方言を使わなくても、アクセン

トの違いで田舎者がはつきりしてしまいます。言葉のアクセントで少々ひきめを感じます。(60代)

- ・知らない人が方言で話したら、「この人福島かな？」と思うけど自分からは言わない。出身地が被災していると言うと(中略)ねほりはほり聞かれるから言わない。だから出来るだけ方言では話さないようにしている。(30代女性)
- ・方言はその地方で使うからいいのであって、他の地域ではなかなか使いづらい。結局、標準語で話すようになってしまう。(60代男性)
- ・方言は、その地域で使われてこそ親しみがあると思うので避難した地域で方言を使うことにはためらいがあります。久しぶりで同郷の人と話す機会があると自然に方言が出てしまいます。(60代女性)

③方言を聞くと悲しくなる／さみしくなる

- ・ふるさとのことを考える機会が減少しているのを感じているため、思い出してほっとした気持ちになる。同時に少し寂しさもある。(20代)
- ・そんな方言もあったなと思ったりするが、ほっとしたりなつかしいとか、がんばろうと思わない。(70代女性)
- ・私の友達は広島に避難しました。回りは自分の家族だけです。それだけだってストレスだと思います。(中略)〇〇町の話し方で話すと、なつかしいといわれます。私はもともと〇〇町に生まれ育ちました。標準語というよりは、自分なりにみんなと話しています。友達も遠くに行くほど、遠ざかりますね。それがつらいです。(50代女性)

④その他

- ・方言はふるさとを再認識する。方言は、その土地(地域)をそこに住む人々と一体となって存在する。そのためそこでのつながりのあった人々を失いその土地を失えば消滅してしまうもの。方言だけを残しても命を吹き返すことはない。(中略)[方言は]無理に受け継ぐものではない。方言に愛着を感じるのは方言そのものに愛着を感じずるものではなくその土地での人々とのつながりになつかしさがこみあげる。(80代女性)
- ・方言は地域の言葉。茨城に来たら茨城の言葉に自然になるのが普通では？(60代男性)
- ・ふるさとのことを考える機会が減少しているのを感じているため、思い出してほっとした気持ちになる。同時に少し寂しさもある。(20代)

(2)E 自由記述：方言にまつわるエピソードや当該の調査についての意見等

E ふるさと(ご出身地)の方言の興味深いことば、方言ならではの表現、方言にまつわる出来事などがありましたら教えてください。また、この調査について、何かお気づきのことやご意見がありましたら教えてください。

全体 2015

回答者 [全体 63(35.6) (男性 21(29.6) : 女性 38(39.6) : 性不明 4(-))]

つくば調査 2015

回答者 [全体 43(35.8) (男性 16(32.7) : 女性 26(39.4) : 性不明 2(-))]

水戸調査 2015

回答者 [全体 20(35.1) (男性 5(22.7) : 女性 12(40) : 性不明 3(-))]

設問Eは、最後に方言や本調査だけでなく自由にご意見をいただく目的で設けた。D項目同様に、記述を大まかに分類して見ていく。なお、設問Eの回答者の年代と性別についても、設問Dと同様に示す。

①ふるさとの方言・俚言そのものの記載や方言による意見、エピソード等

- ・4才の孫がいるのですが、何気なく使っている言葉が孫にはおもしろいのか、まねをされると標準語で話そうと意識してしまいます。私は、言葉の最後に「～は(ハ)」と言うことがあり、孫にも「どうして“は”をつけるの」と言われたことがあります。娘にも幼稚園に入ったら笑われるから気をつけてと言われ標準語で話すようにしています。方言はやはり使われないと忘れられてしまうように思います。(60代女性)
- ・小さい孫が「こたつにつんむぐる」とか方言を使うのを聞くと笑ってしまいます。(中略)茨城もなまりが似ているので、あまり気になりませんが、都内に行った時には標準語で話すように気をつけています。(50代女性)
- ・「かえってどーも」[ということばを]逆にすいませんみたいな意味で使ったら、もう帰っていいよと解釈され弁明に困った事があります。(30代女性)
- ・ふとした時に使うことばが伝わらない。例えばドアが少し開いていた時、「そこ、けつぬけ」って言って伝わらなかった。洗濯物を取りこんでほしかった時に「おっこんでおいで」が伝わらなかった。同意の意味での「だから」が他県の人には、「だから～」みたいな、まだ話があると思われる。(20代)

②方言に関わる①以外の意見等

- ・震災前から子供たちから方言はあまり聞こえなかったと思う。特に私が住んでいた所は、俗にいうズーズー弁なので地元以外で使うことは、震災の前後に限らず、なかったと思われる。よその地域からバカにされているような気がしたからである。とはいうものの、自分では標準語で話しているつもりでも都会ではなままっているねと、言われるものである。(50代男性)
- ・以前住んでいた所で若い世代は標準語で話していたので、余り方言は気にしない。(50代女性)
- ・茨城は茨城の方言があるのに、わざわざ福島の方言を茨城で使わなくてもいいと思う。(30代女性)

③調査についての意見(批判)

- ・方言の意識調査等びっくりしました。こんなに思ってくださいなんて有難いね。よろしく願い致します。(80代女性)
- ・今後共頑張って下さい。(60代女性)
- ・口語は変化するものだから記録としてアーカイブは必要だが、使用の強要は同意できない。意識的に使うと観光のためのこびた言葉に感じる。(後略)(40代男性)
- ・(前略)私自身は意識して標準語と言われるそれと方言を使い分けようと思っている訳ではない。〇〇に住んでいる頃から自然とそうなっている。一般の人々が家族の前ではリラックスしてくだけた言葉になるように。方言とはそういうものだから、守ろうとしたら、それを笑われたり、このようにするものではないと思う。(20代)

④その他

- ・この震災を機に若い世帯と別々に暮らしている方々が沢山います。若い人は、きっと方言で話すことを恥しいと思っているように感じました。我が家は、親子、孫と一緒に暮らしています。ですから言葉のかべはありません。いつもと変わらず福島の言葉で話しています。一度だけ、言葉の語尾で、茨城県に来たとき、福島の人であろうといわれたことがあります。(60代女性)
- ・ふるさとを離れてもう5年 故郷へ帰りたいです(80代男性)
- ・気をつかって標準語で話すようにしていますが、心に扉をしめて口だけで話している感じがします。方言で話すとはっとして安らぎを感じます。震災後、絆という言葉がよく

使われていますが、以前は何とも思いませんでした。絆の大切さは震災に遭って始めて分かりました。それには方言が大きな役割を持っていたのではと思います。(80代女性)

- ・ 子供達には方言を大切にしたいと思いますが、グローバルな時代に向い日常語として使うのはどうかと思います。△△地方では若い人、子供達はほとんど使用していません。何とか残しては欲しいと思います。(80代女性)
- ・ 方言は文化であり重要であり後々に伝えてゆかねば。(70代男性)
- ・ ふるさとの方言っていろいろありますが、すばらしい言葉ではないでしょうか。これからも忘れない様にして日常生活で使いたいと思います。(無くしてはいけない言葉)。(60代女性)
- ・ 方言を話したからといって生きていこうという気持ちにはなれない。震災前にこのようなアンケートがあったならばもっと違うことがいえたかもしれない。(60代女性)